

愛知まちなみ建築賞の受賞作品一覧

第1回 [平成5年]

- 足助町福祉センター 百年草 [東加茂郡足助町]
- OZモール [名古屋市北区]
- 倉沢邸 [名古屋市中区]
- 米久築 [豊橋市]
- 瀧定本社ビル [名古屋市中区]
- トヨタ博物館 [愛知県長久手町]
- 豊橋市二川宿本陣資料館 [豊橋市]

第2回 [平成6年]

- 愛知芸術文化センター／愛知県図書館 [名古屋市中区]
- 愛知県陶磁資料館 [瀬戸市]
- アポロドーム名古屋S.S. [名古屋市中区]
- 間屋記念館 [西春日井郡西枇杷島町]
- 新美南吉記念館 [半田市]
- へきなん芸術文化村 [碧南市]

第3回 [平成7年]

- 産業技術記念館 [名古屋市中区]
- コーポラティブ・ハウス 木附の里 [春日井市]
- 知多印刷工場 [半田市]
- 常滑市体育館 [常滑市]
- 扶桑文化会館 [丹羽郡扶桑町]
- 2つの空(グラバア、佐川邸) [西加茂郡小原村]
- 夜明屋 [犬山市]

第4回 [平成8年]

- 岡崎市美術博物館 [岡崎市]
- 荻須記念美術館アトリエ復元 [稲沢市]
- 加藤重孝邸 [名古屋市中区]
- サン・ドーム、サン・ワークショップ [豊田市]
- 高浜市やきもの里 かわら美術館 [高浜市]
- 西尾市歴史公園 [西尾市]
- マンリン書店「蔵の中のギャラリー」 [東加茂郡足助町]

第5回 [平成9年]

- 旭町立旭中学校 [東加茂郡旭町]
- 丈山苑(詩泉閣) [安城市]
- 名古屋能楽堂 [名古屋市中区]
- 世界のタイル博物館 [常滑市]
- ナディアパーク(NADYA・PARK) [名古屋市中区]
- トークハイム八事 [名古屋市中区]
- 豊田市美術館 [豊田市]

第6回 [平成10年]

- あいち健康の森健康科学総合センター [知多郡東浦町]
- 大府西バレット幼稚園 [大府市]
- サッポロビール名古屋ビール園 浩養園 [名古屋市中区]
- 豊明市消防庁舎 [豊明市]
- 豊田自動織機組合会館est [刈谷市]
- 尾西市三岸節子記念美術館 [尾西市]

第7回 [平成11年]

- 愛知県立大学 [愛知県長久手町]
- NS21 [刈谷市]
- 蒲郡情報ネットワークセンター・生命の海科学館 [蒲郡市]
- 清洲町上本町集会所 [西春日井郡清洲町]
- 知多市歴史民俗博物館 [知多市]
- 名古屋大林ビル [名古屋市中区]
- 夢広場はるひ(はるひ保健福祉センター・はるひ夢の森公園) [西春日井郡春日町]

第8回 [平成12年]

- 宇野邸 [名古屋市守山区]
- 小弓の庄[旧加茂郡銀行羽黒支店復原施設] [犬山市]
- JRセントラルタワーズ [名古屋市中区]
- JAF中部本部・愛知支部事務所 [名古屋市中区]
- 瀬戸市マルチメディア伝承工芸館 [瀬戸市]
- 一瀬戸染付研究所 [瀬戸市]
- 瀬戸市立品野台小学校 [瀬戸市]
- 長久手町文化の家 [愛知県長久手町]

第9回 [平成13年]

- オンワード樺山 名古屋支店ビル [名古屋市中区]
- あうら [西春日井郡西春日町]
- 一楽軒 [名古屋市中区]
- 染田ふれあいセンター「しろやま」 [犬山市]
- せんねん村 [西尾市]
- 豊橋市公会堂 [豊橋市]
- 鈴浜南山美術館 [名古屋市中区]

第10回 [平成14年]

- 愛知工業大学名電高等学校北校舎 [名古屋市中区]
- 高嶺下(こうろげ)住宅 [東加茂郡足助町]
- stadium600 [名古屋市中区]
- 豊田自動織機情報技術研究所 [刈谷市]
- 長屋門の家 [東海市]
- 羽ね屋敷 [名古屋市中区]
- メナード本社ビル [名古屋市中区]

第11回 [平成15年]

- 名古屋 クロイゾン スクエア [名古屋市中区]
- オアシス21 [名古屋市中区]
- カゴメ錦ビル/ルイ・ヴィトン名古屋店 [名古屋市中区]
- 東邦ガス知多緑浜工場管理センター [知多市]
- 長浦の家 [知多市]
- 西尾市岩瀬文庫 [西尾市]
- 星が丘テラス [名古屋市中区]

第12回 [平成16年]

- 愛知淑徳大学星が丘キャンパス1号館 [名古屋市中区]
- 尾張旭市営愛宕住宅 [尾張旭市]
- 刈谷総合病院診療棟 [刈谷市]
- 豊田自動織機大府801工場 [大府市]
- 名古屋大学IB電子情報館 [名古屋市中区]
- 地下鉄名古屋大学駅 [名古屋市中区]
- 名古屋大学野依記念物質科学研究館・学術交流館 [名古屋市中区]
- 藤森の家 [名古屋市中区]

第13回 [平成17年]

- 愛知淑徳大学9号棟(語学教育センター) [愛知県長久手町]
- 旧加藤商会ビル [名古屋市中区]
- 栄三丁目ビルディング・LACHIC [名古屋市中区]
- 中部国際空港 旅客ターミナルビル [常滑市]
- 徳川園 [名古屋市中区]
- ノリタケの森 [名古屋市中区]
- 三好町の家 [西加茂郡三好町]

第14回 [平成18年]

- あいち海上の森センター [瀬戸市]
- アーバンネット名古屋ビル [名古屋市中区]
- 金城学院大学W9・10号館 [名古屋市守山区]
- グランドメゾン東明町 [名古屋市中区]
- 小石川医院 [豊田市]
- 柘榴の家 [名古屋市中区]
- 名古屋テレビ塔 [名古屋市中区]

第15回 [平成19年]

- 名古屋ルーセントタワー及びそのアートワーク [名古屋市中区]
- 泉町の家 [豊田市]
- INAXライブミュージアム 土・どろんこ館 [常滑市]
- 暮らしの学校 [岡崎市]
- 提灯&カフェ 犬山おどき [犬山市]
- ナゴヤ セントラルガーデン [名古屋市中区]
- MARUWA瀬戸寮 [瀬戸市]

第16回 [平成20年]

- モード学園スパイラルタワーズ [名古屋市中区]
- 安城の家 [安城市]
- C Forest III + 喜多福總本家 [名古屋市中区]
- J's viz. aille [愛知県長久手町]
- 長久手町青少年児童センター・長久手町立色金保育園 [愛知県長久手町]
- 碧南市藤井達吉現代美術館 [碧南市]
- 村井歯科 [半田市]

第17回 [平成21年]

- e-生活情報センター「デザインの間」 [名古屋市中区]
- 岩倉小規模多機能ホーム・ちあき [岩倉市]
- M-HOUSE [名古屋市中区]
- 岡崎市図書館交流プラザ Libra(りぶら) [岡崎市]
- 醸庵 [岡崎市]
- florist_gallery N [名古屋市中区]
- みなと医療生活協同組合 宝神生協診療所 [名古屋市中区]

第18回 [平成22年]

- ECO-35 [名古屋市中区]
- 北名古屋市立西春中学校 [北名古屋市]
- 慈眼山 成願寺 [名古屋市中区]
- PROSTHO Research Center [春日井市]
- まといの家 [YYS HAUS] [瀬戸市]
- 翠の家 [名古屋市中区]

第19回 [平成23年]

- Sunlight of Calm [名古屋市中区]
- しっぽうちょう調剤薬局 [あま市]
- 総合病院 南生協病院 [名古屋市中区]
- 飛島村立小中一貫教育校 飛島学園 [海部郡飛島村]
- 豊田市自然観察の森 ネイチャーセンター [豊田市]
- 中野竹田荘 [名古屋市中区]
- 名古屋科学館 理工館・天文館 [名古屋市中区]

※市町村名は受賞当時のものを表記しております

Art Direction + Design 高柳 新 / 村松 弘友紀(LUKE)

第19回

愛知まちなみ建築賞

表彰作品集 2011



主催:愛知県
 後援:愛知県市長会/愛知県町村会/愛知県商工会議所連合会/愛知県都市計画協会/中部経済同友会
 協賛:(社)愛知建築士会/(社)愛知県建築士事務所協会/(社)日本建築家協会東海支部愛知地域会/
 (社)愛知県建設業協会/愛知県建築技術研究会/(財)愛知県建築住宅センター/
 (財)東海建築文化センター/中部デザイン協会



建設部公園緑地課:〒460-8501 名古屋市中区三の丸三丁目1番2号
 TEL 052-954-6612(ダイヤルイン) MAIL koen@pref.aichi.lg.jp

2012.1

AICHI MACHINAMI RENCENTRO SHOW

愛知まちなみ建築賞について



愛知県知事

大村 秀章

Hideaki Omura

愛知県では、魅力的な地域づくりには良好な景観形成が必要と考え、自然、歴史、生活、産業などの景観特性を生かし、未来につなぐ緑豊かな「美しい愛知づくり」を推進しています。その取り組みの一つであります「愛知まちなみ建築賞」は、まちなみの構成要素である建築物が良好な地域景観の形成に積極的に関わり、一定の社会的な役割を果たすことが重要であるという認識のもと、新しいまちなみ景観の形成を先導してモデルとなるものや、まちなみに調和し地域の特色ある景観を創造しているものなど、社会貢献度の高い建築物やまちなみを表彰する制度として平成5年から実施しております。

本年度は、116作品の応募をいただきました。これら多くの作品の中から選考委員会での厳正かつ熱心な審査によって選ばれた7つの受賞作品は、建築物の美しさのみならず地域景観への影響も含め、本賞の名前の通り、愛知の「まちなみ」および「建築」をけん引していく作品として高く評価されるものばかりです。

昨年3月には東日本大震災がありました。

我々は、建築物の「安全・安心」の重要性を痛感しただけでなく、地域との繋がりや世代を超えた交流、更には地域環境を守ることの重要性も再認識しました。今回の受賞作品は、地域の景観を深く理解して設計された集合住宅や店舗、次世代を担う子どもたちへの教育施設、まちづくり協議会や地元自治体の協力によりまちなみを守った古民家再生プロジェクト、地域住民との新しい関係をつくる病院など、社会が抱える様々な課題に建築がどう向き合っていくべきかを、一つの回答として示した作品が揃っています。これらの受賞作品が今後も多くの人々に愛され、また地域のより良い景観づくりに寄与していくことを期待しております。

最後になりますが、広くご関心を寄せていただいた県民の皆様方をはじめ、熱心に審査していただいた選考委員の皆様、温かいご支援をいただきました後援・協賛団体の方々へ、厚くお礼申し上げます。

今後とも、県民の皆様と連携し、魅力あるまちなみの形成を通して、美しい愛知づくりに取り組んでまいりますので、ご理解とご支援をお願い申し上げます。

受賞作品 (50音順)

- 01 | Sunlight of Calm [名古屋市名東区]
- 02 | しっぽうちょう調剤薬局 [あま市]
- 03 | 総合病院 南生協病院 [名古屋市緑区]
- 04 | 飛鳥村立小中一貫教育校 飛鳥学園 [海部郡飛鳥村]
- 05 | 豊田市自然観察の森 ネイチャーセンター [豊田市]
- 06 | 中舛竹田荘 [名古屋市緑区]
- 07 | 名古屋市科学館 理工館・天文館 [名古屋市中区]



織り込み技法による記念銘板
作/陶芸家 水野教雄

選考基準

良好なまちづくりを進めていくためには、建築物及びまちなみが地域環境の形成に積極的に関わり、一定の社会的役割を果たしていくことが重要であるという認識の下、募集条件に適合しているものうち、良好なまちなみ景観の形成や潤いのあるまちづくりに寄与する等、良好な地域環境の形成に貢献していると認められる建築物又はまちなみで、次の基準のいずれかに適合し、かつ社会的貢献度の高いものを選考する。

1 地域における新しい建築文化の創造に寄与しているもの。

(以下例示)

- 新しい地域景観の形成を先導し、モデルとなるもの。
- デザインに優れ、地域環境の形成又は新しい地域環境の創造に寄与しているもの。
- 周囲への配慮がなされ、地域の魅力を高めているもの。

2 地域のまちなみに調和し、魅力的な景観の形成に寄与しているもの。

(以下例示)

- 地域の風土を生かし、新しい地域文化を創造しているもの。
- まちなみに調和し、地域の特色ある景観を創造しているもの。
- 建築協定等の住民の主体的な活動や総合的な計画等により、まちなみ景観が形成されているもの。

3 魅力と潤いのある空間の創造に寄与しているもの。

(以下例示)

- 緑化、せせらぎ等の、地域に魅力と潤いを与える空間を創出しているもの。
- 通り抜け空間や開放ギャラリー等の、地域コミュニティの形成に寄与しているもの。
- 地区計画等の詳細な整備計画や住民活動等により、良好な地域整備が図られているもの。

4 その他、本賞の趣旨に適合し、地域に貢献しているもの。

選考経過

推薦・応募対象

愛知県内で、平成18年4月1日から平成23年8月20日までに建築又は改修等された建築物やまちなみで、選考基準に該当するもの。

推薦・応募期間

平成23年7月1日から平成23年8月20日まで

推薦・応募総数

120通(116作品)

第1回選考委員会

平成23年9月9日 一次選考を行い、22作品が通過

第2回選考委員会

平成23年11月9日 二次選考を行い、7作品が受賞

表彰式

平成24年2月1日

選考委員 (順不同/敬称略/●印は選考委員長)

- 有賀 隆 早稲田大学理工学術院教授
- 生田 京子 名城大学准教授
- 伊藤 恭行 名古屋市立大学教授
- 岡田 憲久 名古屋造形大学教授
- 北川 啓介 名古屋工業大学大学院准教授
- 都築 敏 特定非営利活動法人ビジュアルコンテンツプロダクトネットワーク理事長
- 伏見 清香 広島国際学院大学教授
- 佐藤 東亜男 社団法人愛知建築士会会長
- 朝岡 市郎 社団法人愛知建築士事務所協会会長
- 谷村 茂 社団法人日本建築家協会東海支部愛知地域会会長
- 松井 宏夫 愛知県建設部建築担当局長



早稲田大学理工学術院教授

有賀 隆

Takashi Ariga

総評

愛知まちなみ建築賞

東日本大地震が引き起こした巨大災害と原子力発電所事故による進行中の災害は東北地方の被災地のみならず、私たち日本人に自然と都市、社会と建築について、これまでの関わり方とこれからの在り方を再考させることとなった。今年の「愛知まちなみ建築賞」はこうした大震災からの復旧・復興が続く中で、第19回目となる2011年度の作品募集と賞の選考をスタートさせたわけである。県内各地域から総数116点の作品応募をいただき、このうち約4割強を名古屋市内から、また尾張、西三河、東三河の各地域からは昨年の約3~7割にあたる応募作品をいただいた。さて分野別に見ると、住宅52点、集合住宅11点、学校等の教育施設9点、店舗7点、事務所・工場4点、医療・福祉施設14点、複合施設3点、その他(民間)4点、公共施設12点である。第1次選考ではこの中から22点の候補作品に絞ったが、その後の詳細資料ならびに現地確認の過程で、このうち1作品が愛知県「人にやさしい街づくりの推進に関する条例」に適合していない建築物であることが判明したため選考対象から除外した。11月9日の第2次選考では作品毎の詳細資料・図面ならびに現地撮影した映像資料を用いて選考委員全員による評議を行った。対象21作品はいずれも優れたもので、委員による活発な議論が交わされ全体合議によって受賞作を最終決定した。

「しっぽうちょう調剤薬局」は、畑に囲まれた敷地に建ち、小さいけれども風景のインフラストラクチャーとなる建築の可能性を示している。都市近郊田園地域の景観づくりに対する建築のあり方を示した意欲作である。「中舩竹田荘」は、町並み保存を建築物の修復・修景の範囲にとどめず、現代に生き続ける歴史的、文化的な価値を賦活する場所として、古民家再生と高齢者向け優良賃貸住宅の新築とを一体化させた優れたまちづくりプロジェクトである。「総合病院 南生協病院」は、313床・26

診療科を有する総合病院である。健康な地域づくりの拠点という住民会議で提案されたコンセプトを反映させた敷地内外を結ぶ動線計画や街並み形成、エントランスホール内の多用途複合など先導的な試みが高く評価される。「豊田市自然観察の森ネイチャーセンター」は、都市近郊の里山をフィールドにした環境学習、自然観察の中核施設であり、観察路への出発点となる「道の建築」を2つのチューブで形づくっている。谷戸と呼応させた配棟は地形に囲まれた広場空間をつくり出し、かつて人が手入れして守ってきた身近な里山との関わりを視覚的にも表現している。住宅は個々の設計条件が大きく影響するのだが、「Sunlight of Calm」は周辺に戸建て住宅や民間マンション、団地など様々なアーキタイプが混在する市街地において、素材の最小単位(コンクリートブロック)から街並みのボリュームへと連続するスケール要素を集合化させることにより、新たな都市住宅景観の可能性を拓いた秀作である。「名古屋市科学館 理工館・天文館」と「飛島村立小中一貫教育校 飛島学園」は、周辺環境こそ異なるが、いずれも子供たちを育む科学文化、学習教育の新しい拠点とともに都市の風景をつくる創造的なプロジェクトである。地球環境や宇宙天体をテーマとした科学や、ロケット製作を支える先進工業地帯という地域性をテーマとして、それらを建築という媒介(メディア)空間を通して可視化し、学びの場を都市の表情へと導いた秀作である。

受賞作品の詳しい評価はそれぞれの選評に譲るが、建築を通して都市の文化的景観や地域の自然風景のあり方を提示する、まちなみのインフラストラクチャーともいえる意欲作が多かった様に思う。今回、大賞については選考委員全員の合意に至らず受賞作はなかった。新しい建築文化の創造と地域のまちなみを先導する意欲的な挑戦をさらに期待したい。



さんらいとおぶかーむ
名古屋市名東区代万町

Sunlight of Calm



フラットとメゾネット、三層メゾネットによる6戸の異なる空間構成が組み合わさって一体となった第一種住居地域に建つ長屋型の賃貸集合住宅である。

東西の住宅が隣地境界線に近接し採光方向に制約が生じる中、窓や中庭や階段からの採光、外装の一面をなす特注の白いコンクリートブロックからの反射光など、敷地条件を良質に解釈するからこそ、素材感あふれる光と陰影に富んだ住空間を実現している。それ故、この現代の長屋では、一時的な風雨の状況や雲のかげり、ゆっくりし

た一日の太陽の動き、そして四季折々の空気感まで、長きも短きも豊かな時間がうつろう。また、外断熱としても機能するひとつひとつのコンクリートブロックは、その集まりが一枚の壁、ひとつの住戸、一体となった建築、そして街へ、素材からまちなみへいたる周辺環境の大小どの事象にも融和し、大きくも小さくも豊かな空間がうつろう。

彫塑的な建築だからこそ、逆に、どこか地元の自然素材を多用した風土的な伝統建築の佇まいやそこの住まいにも通ずる、長短の時間と大小の空間を極度にまで活かした、森の中にいるかのようにすら感じさせてくれる時間と空間が、まちなみへも大きく寄与している点が高く評価された。

北川啓介 Keisuke Kitagawa



住所	名古屋市名東区代万町1丁目	
建築主	石川真也	
設計者	D.I.G Architects 吉村昭範+吉村真基	
施工者	株式会社アーキッシュギャラリー	
概要	主要用途	長屋
	構造	鉄筋コンクリート造
	階数	3階
	敷地面積	448.43m ²
	建築面積	226.22m ²
延床面積	438.99m ²	

しっぽうちょう調剤薬局



現代的でありながら懐かしさを感じさせる不思議なたたずまいを持った建築である。現代的なたたずまいは、細長い敷地の中に作られた明快なプラン、白を基調にまとめられたシンプルな内部空間によって獲得されている。懐かしさの感覚は、切妻型の外観と茶色のアスファルトシング葺の外装によって呼び起されるように思われる。しかし、この懐かしさは直喩的に伝統的な日本建築をトレースすることによって得られているわけではないところが面白い。日本的伝統よりもむしろ国籍不明な納屋のようなものを感じられる。この感覚は、軒のディテールを消した純粋な形態としての切妻、柔らかなむくりをもった屋根の稜線、屋根と壁を同一素材で仕上げていることなどによって呼び起されるものだろう。特に、シングル葺の外装が極めて重要な役割を果たしている。例えば、この建築の屋根と壁が銀色のガルバリウム鋼板で葺かれていたら、極めて強度の高い現代建築の記号性を帯びること



になったに違いない。ここで選択された茶色のシングル葺の外装が、そのような記号性を逃れて、現代的でありながら懐かしさを感じさせる建築の姿を獲得することに貢献しており、この小さな建築は郊外の風景の中に柔らかな点景として定着している。

伊藤恭行 Yasuyuki Ito

住 所	あま市七宝町桂深田
建築主	有限会社ミッテル
設計者	五藤久佳デザインオフィス有限会社
施工者	株式会社田中建設
主要用途	調剤薬局
構 造	木造
概 要	
階 数	1階
敷地面積	145.89m ²
建築面積	87.47m ²
延床面積	84.86m ²

1,2,3 photo/エクス名古屋(2010)



名古屋緑区大高町

そつてつびょういん みなみせいきょうびょういん

総合病院 南生協病院

南生協病院はJR南大高駅前に立地し、駅と住宅地をつなぐ場所に位置する。高層棟には、救急・外来・病棟などの病院としての主機能をしっかりと確保されつつ、低層棟にはベーカリー・料理教室・フィットネスセンター・旅行カウンター・保育所・レストラン・・・と、健康な人も訪れる、街としての機能が表情豊かに組み込まれている。

言うまでもなく、それらの「街としての機能」を地域の人が平常に利用し、かつ入院・

通院している人達に「元気になったら、旅行にチャレンジしようかな・・・料理教室に来てみようかな・・・」などという動機づけのきっかけを与えることであろう。

昨今は、地方病院の閉鎖・再編が続く時代である。その中で、地域の人が健康な時から関わりを持ち、その病院の運営に自然と共感をもって維持に携わって行く仕組みづくりが重要な時代と言える。この病院は、その意味から積極的な事例として全国的にも高く評価されよう。

設計者は上のようなプログラムを、開放的かつシンプルな空間構成で実現している。駅前からは大庇で迎え、中に入ると、待合と喫茶店の椅子が隔てなく連続するなど、様々な店と病院機能が自然に溶け込んでいる。

生田京子 Kyoko Ikuta



住 所	名古屋市緑区大高町
建築主	南医療生活協同組合
設計者	株式会社日建設
施工者	株式会社竹中工務店 名古屋支店
主要用途	病院、助産所、飲食店、物品販売業を営む店舗
構 造	鉄骨造一部鉄骨鉄筋コンクリート造、鉄筋コンクリート造
概 要	
階 数	7階
敷地面積	17,878.72m ²
建築面積	9,039.87m ²
延床面積	29,388.74m ²





1

海部郡飛鳥村

としひまそんりつしょうちゅういっかんきょういっくわう
とびしまがくえん

飛鳥村立小中一貫教育校 飛鳥学園

飛鳥村は、昔ながらの田園風景が広がる農村地帯と名古屋港に面した先進的な臨海工業地帯とが共存している。この飛鳥学園は、既存の小学校と中学校を統合し、一貫した義務教育を行う事を目的に建設された村で唯一の学校である。当敷地は村のほぼ中央に位置し、南のブロックには飛鳥村役場・公民館・村民体育館、東のブロックには図書館・プール・児童館などの複合施設がある。それらの中央に学園の広いグラウンドを配し、囲む様に校舎がある。校舎はグラウンドとの間にあるプロムナードに沿って東西に広がり、変化をもたした外観は、子どもたちが9年間を過ごすまちなみを形成している。建物内はメディアセンターを中心とした構成で新しい取組みがなされている。また、北側の道路からの景観も工夫され、

住所	海部郡飛鳥村大字松之郷3丁目
建築主	飛鳥村
設計者	株式会社石本建築事務所 名古屋支所
施工者	村本建設・凌辺工務店・飛鳥木材 特定建設工事共同企業体
主要用途	小学校・中学校
構造	鉄筋コンクリート造一部鉄骨造一部鉄骨鉄筋コンクリート造
階数	3階
敷地面積	42,856.06m ²
建築面積	8,607.80m ²
延床面積	13,100.67m ²

田園風景のなかに様々な形の教室のならびが子どもたちの躍動を感じさせる。全体をアースカラーで仕上げた外壁も、南、東のブロックにある施設と調和し、村の中核をなす地区を魅力あるものになっている。

佐藤 東亜男 Toao Sato

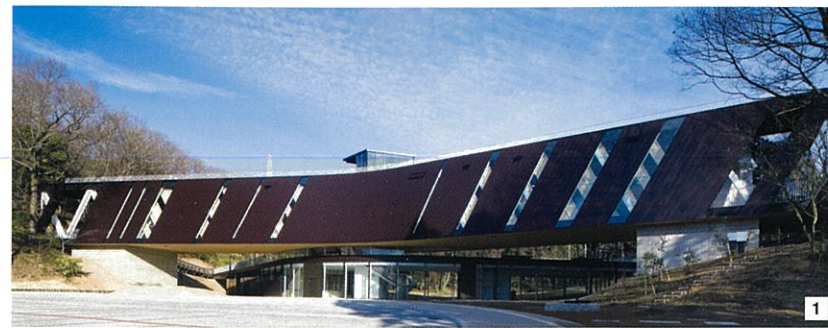


2

1,2,3 photo/林広明[ロココプロデュース](2010)



3



1

1,2 photo/上田宏/上田宏建築写真事務所(2010)

豊田市東山町

とよたしぜんかんさつのもり
ネイチャーセンター

豊田市自然観察の森 ネイチャーセンター

豊田市外環状道路沿いにぽっかりと開けたエントランス部は道路沿いの森が深い為、うっかりしていると通り過ぎてしまう恐れがある。しかし、駐車場から奥を見上げると、少し色づいてきた木立の中に茶色の外壁と特徴ある斜めの開口部を持つネイチャーセンターが、地面から浮遊するように目に飛び込んできた。

平面的にはX形をした2つの柔らかな曲線を持つチューブが折り重なる特異な形をした建物だが、迎え入れるエントランスゾーンと森の自然散策路へ誘導するデッキゾーンとの融合は見事な解法だと納得させられた。



2

1階部分の壁はガラスで透明感を持たせて森を透かし、2階では斜めの形状のガラスから垣間見える森を見ながら中央部の出口からデッキへと導かれる。

散策路を巡ると、里山とはいえ、高い木立が林立する深い森のゾーン、湿地帯を巡るゾーンがあったりと様々な変化があり、センター棟へ戻ってくるとほっとするほどの自然を満喫できる。設計者とこの森で活動する市民や自然の研究者が10回以上の検討会を重ねてきた成果は森全体の施設やサイン計画の随所に現れ、訪問者をやさしい色と形で和ませてくれる。何度も訪れたくなる施設である。

谷村 茂 Shigeru Tanimura

住所	豊田市東山町4丁目
建築主	豊田市
設計者	株式会社遠藤克彦建築研究所
施工者	熊谷・斎藤建設共同企業体
主要用途	環境学習施設
構造	鉄骨造
階数	2階
敷地面積	9,894.32m ²
建築面積	1,615.34m ²
延床面積	1,354.27m ²





中舛竹田荘は、旧東海道沿いの有松町並み保存地区に建つ、有松絞りの開祖竹田庄九郎ゆかりの歴史的建造物である。この建物の老朽化に伴い、取り壊して共同住宅を建築する計画が立てられた。取壊す直前の平成19年7月、この計画に待ったをかけたのが、有松まちづくりの会と名古屋市であった。これを受けて、有松の旧街道の町並みに調和する外観を求め基本計画と設計は大幅に変更され、高齢者用賃貸住宅とデイサービスのための建物として、全てが完成したのが平成22年10月であった。この間、平成22年3月、中舛竹田荘の再生保存を目的として「有松まちなみ保存ファンド募金」が設定され、集められた浄財660万円が建築費の一部に充てられている。

私ごとであるが、この建物の前に立ったとき、西三河部にある農家の陽あたりのいい縁側にすわり、木綿布に付けられた印を糸で黙々と括る、今は亡き私の祖母の姿をふと思い出した。400年の歴史を有する有松絞りの一工程を、彼女は担っていたのである。



人々の営為やその歴史は、建物や町並みに残るのかもしれない。歴史的建造物や町並みの保存は、我々の営為や歴史の保存でもあるのだろう。中舛竹田荘とその周辺地域は、これからも守っていききたい、我々の歴史を残す建物と町並みである。

都築 敏 Satoshi Tsuzuki

住所	名古屋市緑区有松
建築主	竹田敏彦
設計者	株式会社加藤設計
施工者	OPUSスタイル株式会社
主要用途	老人デイサービスセンター、高齢者優良賃貸住宅
構造	木造
階数	2階
敷地面積	921.94m ²
建築面積	391.68m ²
延床面積	499.06m ²

なまますたけだそう
名古屋市緑区有松
中舛竹田荘

1,2,3 photo/OPUSスタイル株式会社(2010)



世界最大級のプラネタリウムと展示装置をもつ科学館として、学習施設であると同時にエンターテインメント性を兼ね備えた施設を目標に改築が行われた。懐かしいプラネタリウムの記憶を形として残した球体は、街のランドマークになっている。その表面上部は太陽や雲を、下部は周辺のまちなみや樹木の影まで柔らかく反映させ、時刻や天候の違いによって表情を変えている。また、球体の下は通路として長者町通りと白川公園をつなぎ、公園と周辺地域の連続性を新たに確保している。さらに、通路の両側をガラスの壁面とすることで、通路を広く感じさせ、光や風が通り抜ける開放的な雰囲気をつくりだしている。加えて、そこにエントランスやミュージアムショップを設けることによって、人の流れだけでなくピロティの賑わいを演出している。ガラスの壁面は、空の青さや雲の動きを反映させながら、館内の活気や人の動きも屋外に伝えている。また、壁面緑化や風力発電は環境への配慮を視覚化し、潤いとアクセントを与えている。これらにより、地域における新しい建築文化の創造と、魅力と潤いのある空間の創造に寄与しているとして評価できる作品である。

伏見清香 Kiyoka Fushimi

住所	名古屋市中区栄2丁目
建築主	名古屋市
設計者	株式会社日建設計、名古屋住居都市局営繕部住宅・教育施設課
施工者	竹中・TSUCHIYA・ヒメノ特別共同企業体
主要用途	科学館
構造	鉄骨造
階数	地上9階、地下2階、塔屋1階
敷地面積	89,297.99m ²
建築面積	4,263.62m ²
延床面積	15,735.19m ²



なごやしがくかん
りこうかん・てんもんかん
名古屋市中区栄

名古屋科学館 理工館・天文館



1,2,3 photo/エスエス名古屋(2011)

